

2024 年 9 月 8 日

第 22 回東南アジア史学会賞選考委員会審査報告

東南アジア学会会長
長津一史先生

東南アジア史学会賞選考委員会委員長
速水 洋子

第 22 回東南アジア史学会賞選考委員会は、審査結果および審査経過を以下の通り報告する。

（Ⅰ）審査結果

授賞作該当なし

（Ⅱ）審査経過

会長より審査委員会に対して、審査対象として自薦による一点の審査を求められた。選考委員会は 5 名で構成され、6 月半ばのオンライン会議にて、速水を第 22 回選考委員長に選出した。また、同会議にて各委員は当該作品について個別に評価を行い、その結果を書面にて委員長に提出し、それを踏まえて 9 月に会議を開催して、審議し最終結論を導くこととした。

評価は、前回と同様、①研究課題の独創性、②関連する調査研究活動の適切性、③史料利活用の適切性、④新たな発見・知見の提示、⑤論述の明確さ、⑥作品の完成度、⑦東南アジア史学・東南アジア研究への貢献度、⑧特記すべき事項、の 8 項目について報告書を提出する形で実施された。選考委員は、当該作品に関する全体的講評とともにこれら項目について審査結果を委員長あてに提出した。その結果は委員長を通じて全員で共有したうえで、9 月 8 日に選考委員会を開催し審議を行った。

審議においては、各委員が当該作品についての評価を説明し、活発な討議を行った。その結果、当該作品は研究課題の独創性および貴重な調査研究資料の提示という観点から評価でき、東南アジア研究への一定の貢献が認められたものの、論述の明確さや学術書としての完成度という点について疑義が多く、慎重な審議の結果、東南アジア史学会賞に該当しないとの結論に達し、今回は授賞作該当なしとなった。

（Ⅲ）その他

委員会からは、学会賞には届かないとはいえ本作のような若手の意欲的な労作に対して、奨励賞など別の形での授賞を望む声が大きかったことを付記する。